

# a whaling ship ほげい船

基本理念  
私達は心のこもった医療を行い、地域に信頼される病院とすることを目指します。

独立行政法人  
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会 / 代表●大串文隆 / 住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号 / 電話 088-844-3111 / FAX 088-843-6385

## 新年を迎えて — チャレンジの年に —



NHO 高知病院 院長  
大串 文隆

新年明けましておめでとうございます。今年は平成が4月で終わり、5月には新しい元号に変わることとなっていますので平成最後の年となりました。職員の皆さんも気持ちも新たに平成31年を迎えたことと思います。

さて、平成30年を振り返ってみると北海道胆振東部地震、大阪府北部地震、島根県西部地震、西日本豪雨、台風の直撃など災害が多発し自然の驚異を実感させられた年でした。また、スポーツ界のパワハラ問題、大学の不正入試問題など以前からあったようですが、それが表に噴出し、私達が知ることとなりました。このことから人々がこれらの出来事を災いとして捉えたのか、その結果平成30年今年の漢字は「災」と決まりました。しかし、暗い出来事ばかりでなく平昌オリンピックにおける日本選手の活躍や医学の面では本庶佑先生のノーベル医学生理学賞受賞という明るい話題もありました。本庶先生が研究をする上で大切なことは好奇心 (Curiosity)、勇気 (Courage)、挑戦 (Challenge)、確信 (Confidence)、集中 (Concentrate)、継続 (Continuation) の「6つのC」だと述べています。この6つのCは研究以外にも私たちの行っている医療に通じるものがあり今年には病院の変革のため、新しいものに挑戦 (Challenge) したいと思っています。その一つとして病院運営に Total Quality Management (TQM) を導入し、医療の質の向上を図っていきたく考えています。高知病院には以前より活性化委員会があり病院の活性化に努めてきましたが、この委員会を発展させ TQM に取り組むための組織に改変したいと思っています。TQM は産業界の製造現場での品質管理を目的に行われていた手法ですが、最近では品質が厳しく問われる製造現場の管理手法を医療現場に導入することで事故を未然に防ごうとする活動に拡がりをみせてい

ます。また、様々な医療行為を「品質」の視点で捉え、良質の医療サービスを患者満足度の向上や医療安全の推進に役立てようとする取り組みも進められています。つまり医療現場における TQM とは、全員・全体 (Total) で医療サービスの質 (Quality) を継続的に向上させる (Management) ことを表しています。TQM 導入は病院の医療の質を向上させることが目的であり「職員一人一人が、その手法を身につけることによる、質的向上と改善を進める体質作り」と言えます。当院にとって TQM 導入は難しいことではありません。というのは TQM の実際の活動には Quality Control (QC) 手法を用います。皆さんもよく知っているように高知病院では従来から QC 活動に積極的に取り組み、機構本部から高い評価を受けております。ただ、すべての部署が参加していたわけではありませんので、これからは全ての部署ごとに QC サークルを形成し、個々の部署で具体的な問題を課題として解決に取り組み、そこで得られた効率化、改善などの対策を検討し実践することが要求されます。このように QC サークルは全ての部署に由来するものでこれら全体を包括するのが病院です。つまり TQM 活動は「全体と部分」「部分と全体」のバランスを考えながら行う総合的手法で、単なる QC に留まらない全体的な取り組みです。この活動に終わりはなく一度改善ができたからといってゴールとはいえません。TQM は静的なものではなく、動的なものと理解し継続していくため PDCA サイクルを回して決して止めるべきではありません。TQM をうまく導入するには、何をテーマ、目標にするかが重要です。

今年には TQM 導入に向け各部署で重要なテーマを選択し明確な目標を立て QC を実践していただきたいと思っておりますし、そのことで病院の質向上が進むものと期待しています。

# 年男 としおとこ 年女 としおんな



泌尿器科医師 佐竹 宏文

新年あけましておめでとうございます。

国立病院機構高知病院にお世話になるようになり、2回目のお正月を迎えます。

自分自身はいつまでも若いと感じていましたが、今回で4回目の亥年で、もうこんな年になってしまったかと痛感しています。改めて前回の亥年からこの12年を振り返ると、我々泌尿器科領域の分野は、飛躍的な進歩を遂げました。12年前といえば私は医師になって9年目、臨床の現場から離れ大学院に在籍していました。そのころ泌尿器科手術といえば、開腹手術ではなくお腹に小さい穴を開けて行う腹腔鏡手術が、主に副腎・腎疾患に対して広く浸透し始め、臨床から離れていた私はこの技術を学べないという焦りを感じておりました。さらにちょうどそのころ前立腺癌に対する腹腔鏡手術も保険適応となり、全国で一斉に盛んに行われるようになりました。高知県では数年遅れて、この前立腺癌に対する腹腔鏡手術、さらには膀胱癌に対する腹腔鏡手術も開始されるようになり、うまい具合に時を同じくして私は臨床の現場に復帰でき、これら低侵襲手術がゴールドスタンダードなものとして確立されていく過程を大学病院や関連施設で多数経験しました。例えば膀胱癌に対する腹腔鏡手術は、当初朝から開始し夜中過ぎまでかかり本当に大変だったのが、今や半分以下の手術時間で行えるまで確立されました。また4年前からは、私が医師になった時には決して想像していなかったロボット支援手術が導入され、さらには癌のみを光らせて切除する夢のような膀胱癌に対する内視鏡治療が私の所属する高知大学から発信・開発され、一昨年にやっと保険認可を受け、現在、いずれも全国で標準的な治療として行われています。

手術以外には、泌尿器癌に対する新しい薬が多数開発され、大げさではありますが私にとってこの12年は激動の時代でした。次の亥年を迎えるときは、医療はさらに進歩し

ていることでしょう。12年後が楽しみでもありますが、どんどん変革するこの時代の流れに果たしてついていけるのだろうかという不安と、また取り残されないように日々修練せねばと身の引き締まる思いで新年を迎えております。

今年も1年どうぞよろしくお願ひ致します。



管理課長 玉井 健一

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

高知病院へ異動して2年目、国立病院に就職してから25年目を迎えることができました。国立病院就職当初と現在を比較すると医療を取り巻く環境が厳しくなっていることを実感します。国立病院時代の費用は予算によって措置されており、平成16年に独法化し、独立採算となった後も暫くの間は病院の業績も右肩上がりでした。しかし、DPC制度や看護必要度の導入などにより、診療内容をより精緻に分類して診療報酬が支払われるようになると、従来どおりの診療では経営が成り立たず、診療密度はより高くなり、職員はより多忙になったように思います。また、最近では働き方改革や少子高齢化問題など、正解のない問題を次々と投げかけられているように感じます。病院は暫くの間、厳しい状況が続くと思いますが、精一杯努力して参りますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



看護師長 山下 智子

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく  
お願いします。

年末年始は実家の岡山に帰省していました。昨年の西  
日本豪雨から半年が過ぎようとしていますが、通行止めの道  
路や土砂崩れの痕のブルーシートなど被害の爪痕がまだま  
だ色濃く残っていました。晴れの国 岡山で育った私は、  
自然災害の経験が少なく、『備え』の大事さを改めて感じま  
した。今年の干支は「亥」です。「亥」は本来「闕(と  
ぎす)」という字であり、草木の生命力が種の中に閉じ込め  
られた状態を表しているそうです。私なりの解釈として現状  
を維持しコツコツと『備え』を蓄えていく年にしたいと思っ  
ております。

高知病院の一員となり2年が過ぎようとしています。初め  
ての転勤、初めての職務で皆様に支えていただきながらど  
うにかやってこられました。本当にありがとうございます。今  
後ご迷惑をおかけすると思いますが、高知病院の一員と  
して精いっぱい努力していこうと思っておりますので、引き続  
きご支援よろしく申し上げます。



栄養士 小野 舞流

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく  
お願い致します。幼いころからよく受診し、お世話になってい  
た高知病院に就職して2年が経とうとしています。新卒で採  
用となり、右も左もわからず、栄養士として未熟な私を上司や  
先輩方が熱心にご指導して下さい、少しずつ成長することが  
できているのではないかと思います。

初めて年女を迎えた時のことを振り返ってみると、周りが戌  
年生まればかりの中、早生まれの私だけが猪年であることに  
納得がいかず、戌年生まれに憧れを抱いたことを思い出しま  
す。猪は、みなさんご存じの通り「猪突猛進」という言葉が  
あるように、前に突き進んでいく力が強い動物です。しかし、  
その反面とても神経質な部分もあるそうです。私自身も物事  
に夢中になるとどこまでも突っ走ってしまうところがあったり、神  
経質な部分があったりと、恥ずかしながら猪にそっくりな性格  
をしているところがあります。仕事面では、任せていただける  
業務が少しずつ増え、初めての後輩もできました。私自身さら  
にステップアップしていかなければ、との思いを強くしております。  
「猪突猛進」する気持ちも大切にしつつ、時には立ち止まり、  
栄養管理室をはじめ先生方、医療スタッフの方々など様々な  
方と関わりあいながら患者さんの栄養管理に携わっていきたく  
と考えております。

まだまだ未熟ではありますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほ  
どよろしくお願い致します。



# 出張健康講話 & 健康相談



臨床研修医  
藤原 利輝

今回、昨年11月14日に越知町民保健福祉大会にて大腸癌とフットケアをテーマに公開講座を行わせて頂きました。会場は越知町民会館の一角で、当日は11月にしては冷え込んでおりましたが、30人ほどの方が聞きに来て下さいました。

実はこのような機会を与えて頂いたのは今回が初めてで、もともと緊張しやすい方ですので講演が始まるまでは不安と緊張でいっぱいでした。しかし、来て頂いた方々が温かい雰囲気の中で、非常によく話を聞いていただいて、途中から緊張もほぐれのびのびと発表することができました。

内容につきましては、前述の通り大腸癌とフットケアについてです。大腸癌は重いテーマでかつ具体的な治療や合併症などシビアな内容にまで掘り込んだ話をさせて頂きました。その後休憩をはさんでフットケアについてお話させて頂きました。足の健康と病気や手入

れについての話ですが、皆さんよくご存じで、深部静脈血栓症や下肢静脈瘤、鶏眼（ウオノメ）など、写真を出すだけで頷かれる方が何人かおられました。発表の最後のクイズでは全員が正解し、越知町民の健康に対する関心の高さが伺えました。

その一方で、発表の後に個別に健康相談をする機会があったのですが、“そもそも何科にかかったら良いかわからない”という声を何度か耳にしました。特に頭頸部の症状に対して多いようで、受診以前のそういったところがネックになっているのだと感じました。これからは診察後だけでなく、診察する前の状況にも注意を向ける必要があると実感しました。

今回多くの方々の健康に対する姿勢や、患者さん視点の見え方を学べたことは大変勉強になりました。このような機会を与えて頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。



## 国立病院機構QC活動報告

# グループ優秀賞を受賞しました



NICU 看護師  
山崎 美幸

NICU・未熟児室では今後の発生が予測される南海トラフ巨大地震などを想定し、防災活動に取り組んでいます。その中で平成29年度の活動内容が「QC活動」の《グループ優秀賞》を頂きました。

地震などの大規模災害が発生すると機器や物資、マンパワーが不足し、通常の医療行為を行うことができません。昨年の熊本地震でも、緊急避難や新生児搬送を余儀なくされました。しかし、NICU・未熟児室スタッフ全員が災害看護の経験がなく、漠然とした不安を抱えていました。そこで、災害看護に対する知識を深め、災害弱者である新生児を守る目的で防災活動を開始しました。その中で、特に多く聞かれた意見は、電子カルテ遮断時に新生児搬送となった場合の手書きサマリーの作成でした。これを受け、患者情報が電子カルテ遮断時でも収集できるよう、従来の入院時チェックリストを元に、患児の入院時からの経過が分かるチェックリストを新たに作成しました。チェックリストの完成により、災害対策への意識付け、災害時の不安が軽減できました。また、これまで入院から退院までの4枚もあったチェックリストを1枚にまとめることができ、用紙の削減や、退院サマリー作成時間の

短縮など業務改善にもつながっています。

今回のQC活動を通し、災害看護への意識を高め、冷静に対処するためには、小さなことからコツコツと日々の積み重ねが大切なのだと実感しました。災害時に患者さんはもちろんのこと、周囲のスタッフや自分自身も守れるよう今後も災害対策を行っていきたいと考えます。

災害から赤ちゃんを守り隊  
山崎 幸子・森木 美保・山崎 美幸



# 国立病院機構QC活動報告

## QC活動奨励表彰 (グループ優秀賞)



手術室看護師  
中平 裕希

平成 30 年度国立病院機構 QC 活動奨励表彰において「後片づけは任せちよき! みんなで守る手術室安全」で優秀賞を受賞しました。今回、手術室で土佐弁を取り入れたチェックリストの作成に取り組んだので報告します。

年々、手術件数は増加し、術式も鏡視下手術などME機器を数台使用する手術や特殊体位の手術が増加しています。以前は各部屋に1枚ずつ退室時チェックリストがあり手術終了後に外回り看護師が記載をするという形をとっていました。しかし、手術件数が増加し1日に同室で何件も手術を行うため、部屋の掃除や使用した器械・物品、薬品等の後片付けが煩雑な状態になることもあり、重大

な事故に繋がる可能性のある事象が発生しました。そこで、安全・円滑に手術を進めるために退室時チェックリストを見直しました。運用開始時は手術を担当した外回り看護師がチェックをしていましたが、片付けや次の手術の準備は複数のスタッフで実施するため、複数のスタッフでも記載できるように運用方法の変更もしていきました。数ヶ月経過するとスタッフも用紙に慣れた反面、1つ1つの項目のチェックが曖昧になってきていると感じ、スタッフが積極的にチェックを行えるよう書式に土佐弁を取り入れ、レイアウトも工夫し現在の運用を行っています。

今回の取り組みを通してスタッフ全員でインシデントに対して取り組むということを再認識し、安全・円滑に手術を行うことの重要性を感じました。今後も継続した活動をしていきたいと考えています。

エンボス

### 退室時チェックリスト

OP( )

外回りサイン( )

①先生、**標本・検体**持っていらっしゃいますか? ( )外回り

②枕は○種類あるかえ?  
円座 ( )  
麻酔用枕 ( )  
脊椎枕 ( )

③エレベーターの中確認したか? ( )外回り

④元あるところにME機器、器械は片付けたか?  
シャカステンまで見た? ( )

⑤シリジポンプのコードを差しただけやないか?  
ランプついちゃう? 抗生剤残ってない?  
( ) 助手さんOK

⑥保温庫の補充はした? 本当に?  
( ) 助手さんOK

**そうじ**

⑦最後の人!  
パソコン切った?  
( )

⑧最後の人!  
カウント台拭いて  
ホワイトボード前に置いてね  
( )

⑨吸引の中は残ってない?  
ライト、壁、モニター、使用物品に  
血ついてないか?  
( ) 助手さんOK

⑩挿管カートは綺麗?  
ハンドルまで拭いたか?  
( ) 助手さんOK

シリジポンプ  
注射器カート  
ME機器  
挿管カート



## 国立病院機構QC活動報告 入賞しました



医療安全管理係長  
山本 三恵

国立病院機構では「QC活動」という医療・サービスの質を上げる取り組みを行っております。医療安全管理室では医療安全を向上する目的で平成28年度に活動した内容を報告したところ、入賞しましたので報告します。

取り組み内容は、重症心身障害児者の日常生活援助に対する骨折予防です。

当院の重症心身障害児者の骨折件数は平成27年度より過去8年間で21件です。うち、18件が原因不明でした。患者さんの身体的状況から日常生活援助時に骨折した可能性が高いと考えられます。過去の骨折予防策として平成26年度以前は、理学療法士をリーダーとした骨折予防チームが年に数回ラウンドし、身体の変形が強い患者さんをピックアップし、援助方法をチームメンバーと病棟スタッフが検討する活動を行っていました。しかし、平成26年度には骨折件数が5件、平成27年度には4件と多いまでした。その理由としてラウンドでは、評価や検討ができる患者人数が限られてしまい、検討内容は他の患者さん

には応用できないことも多い。また、ラウンドには特定の看護師以外は参加できず、ラウンド結果も看護助手や保育士には伝わらないためと考えました。

そこで、スタッフ個人の日常生活援助の質を向上させることが、骨折予防につながるのではと考え、援助に携わるスタッフの職種別に学習方法を工夫した取り組みを行いました。まずは基礎知識の学習として、全スタッフが関節拘縮状態で骨折が発生するメカニズムや骨折をきたす危険な行為についての動画視聴をしました。次に全スタッフが日常生活援助の演習を行いました。看護師は援助行為を演習しその評価を受ける。看護助手は援助行為時の注意点や方法の指導を看護師から受けたあとに演習を行い、その評価を受ける。保育士は指導を受けながら演習するといったプログラムにしました。その結果、取り組み後の平成28年度に発生した【ケアが原因と思われる骨折】は0件と効果がありました。

今回の取り組みは時間も労力もかかりましたが、患者さんの骨折を予防しようと多職種が力を合わせて取り組んだことが良い結果に繋がったと考えます。今後も継続していきたいと思えます。



## 国立病院機構QC活動報告

# 入賞しました



外来副看護師長  
竹内 真弓

国立病院機構では「QC活動」という医療・サービスの質を上げる取り組みを全国の病院で行っています。当院外来でも患者さんに安心して乳がん検診を受けていただくことを目的に活動した内容を報告した結果、グループ優秀賞を頂いたので報告します。

当院では現在、火・水・木・金曜日に乳腺疾患の専門外来を開設しております。乳癌などの乳腺疾患の他に、市町村発行のクーポンを利用した乳がん検診・自己検診・精密検査なども実施しており、年間のマンモグラフィーの件数は400～500件のほります。

外来診察室は、完全個室ではないため、ロールスクリーンとカーテンでしきりを行うなどプライバシーの保護に努めています。また、患者さんには上半身裸になっていただくため、バスタオルをかけて unnecessary 露出を防ぐように配慮させていただいていますが、体勢によってはだけたりすることがあります。

同じ女性として少しでも恥ずかしさを最小限にして乳がん検診を受けていただきたい!という思いでポンチョを作成することとしました。

ポンチョは、患者さんの羞恥心・不安を少しでも和らげていただけるようなものと、寒い冬場でもほっとできるような保温性が高く肌触りの良いフリース素材を選択しました。検査時には前面のボタンを外して患部をさりげなく出すことができ、かつ unnecessary 露出を防ぎながら検査を受けて頂くことができますようになりました。今後は夏場にも使用できるような清涼感のある生地での作成を予定しております。

これからも私たち外来看護師は、「また国立高知病院で診察を受けたい」と患者さんに思ってもらえるような心をこめたケアをご提案できるように努力してまいりたいと思います。



# 第9回 院内発表会と 表彰式について



庶務班長  
丸尾 芳光

平成30年10月3日(水)に第9回院内発表会を開催しました。この発表会は平成22年10月に当院の開院10周年を記念し第1回を開催して以来、毎年この時期に開催しています。演題については院内募集し、既に各学会や研究会で発表済みの内容でも、未発表の演題でもOKとしております。第9回となる今年は臨床研究部長の声かけにより22題の演題が集まりました。発表5分、質疑応答2分であり、持ち時間が十分ではない中でありましたが、会場からの質疑応答も積極的に行われ、活発な発表会となりました。どの演題も素晴らしかったのですが、特に優れていた3つの演題について平成30年11月22日(木)に表彰式が行われ、院長から表彰状が授与されました。1位を受賞した、リハビリテーション科の野々さんは、11月に神戸で開催されました、第72回国立病院総合医学会でも受賞されました。

## 《受賞演題》

★無歯を来す要介護急性期誤嚥性肺炎患者の在院日数に影響を及ぼす因子  
—摂食(口腔)・嚥下・運動・認知機能との関連—  
リハビリテーション科 野々 篤志



★一般大学生と助産学生を対象とした、出生前診断に対する意識の現状と課題

看護部 4階南病棟 芝 万智



★トルバプタンとKM-CARTを併用した経験

医局 消化器内科 岡崎 潤



# 新採用職員紹介



一般職員（医事係）  
紙本 歩実

11月1日より事務部企画課医事係として勤務しております紙本 歩実（かみもと あゆみ）と申します。

高知には小学校2年生まで住んでおり、その後、香川・兵庫・フィリピンで過ごしました。何かのご縁がありこの度、約20年ぶりに高知に戻ってきました。

卒園した幼稚園の通園バスを横目に、懐かしさに浸りながら毎朝通勤しております。

鯉のたたきをはじめ、新高梨や文旦等、美味しい物が多い高知県は食べるのが大好きな私にとって魅力的な県です。

やる気と体力には自信がありますが、右も左も分からず、ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思えます。少しでも早く皆様のお役に立てるよう精進して参りますので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



栄養士  
河野 夏生恵

昨年11月1日より、管理栄養士として採用になりました、河野夏生恵（かわの かなえ）と申します。出身は山口県の柳井市で、今年の春、広島県の大学を卒業後、期間職員として山口県下関市にある関門医療センターで7ヶ月間勤務させていただいておりました。

このたび初めて山口県を離れることとなり、不安や緊張でいっぱいでしたが、高知の方のあたたかい人柄に支えられ、忙しい中にも楽しい日々を過ごさせていただいております。

社会人としても管理栄養士としても至らぬことばかりでご迷惑をおかけしておりますが、患者さんにも高知病院の皆様にも信頼していただける管理栄養士を目指し、日々成長できるよう努めてまいりますので今後ともよろしくお願い致します。

## 職員の異動

10月2日付～1月1日付の人事異動（常勤）

### 採用

▶ H30.11.1

栄養士 河野夏生恵  
一般職員（医事係） 紙本 歩実

### 転出

▶ H30.11.1

栄養士 吉田 沙織

### 退職

▶ H30.10.31

外来係長 小松 信裕

▶ H30.11.30

臨床研修医 住田 智志

▶ H30.12.2

調理師 杉内 茂春

▶ H30.12.7

看護師 北本 栞

▶ H30.12.31

看護師 徳岡 弘子



## 感染管理室だより

# 呼吸器外科病棟における 手術部位感染の低減に向けた取り組み



副看護師長  
河村 ひとみ

看護部では、各看護単位における感染予防対策の実践・指導をするために、ICTリンクナースを選出しています。ICTリンクナース会では、ラウンド指摘事項、手指衛生実施状況、針刺し・体液曝露事例、各種サーベイランスなどについて、情報共有、改善策の検討などを行っています。ICTリンクナースは、各部署でモデルナースとなり感染対策実践のリーダーシップを発揮し活動しており、私たちICTは心強い存在としてとても頼りにしています。

手術部位感染サーベイランスは、呼吸器外科胸部手術について平成28年度より開始しました。開始当初と比べ徐々に感染率は減少し、改善傾向にあります。サーベイランス開始後より、呼吸器外科医師、病棟看護師長、副看護師長、ICTリンクナースと共に感染低減のための改善策の検討を重ね、取り組んできました。昨年度からは、創部包交時の感染管理ベストプラクティスを作成し、個々の作業時の手順を確認することで手指衛生遵守率向上、包交時の最善手技の遵守などの取り組みに力

を入れてきました。病棟ではICTリンクナースを中心に、ベストプラクティスを用いて勉強会やデモンストレーションなどを実施し、今年度も継続して取り組みをしています。

2018年12月8日に広島国際会議場で開催された第16回国立病院看護研究学会にて、「呼吸器外科病棟における手術部位感染の低減に向けた取り組み」というテーマで、呼吸器外科病棟のICTリンクナースの國廣美早さんが発表をしました。昨年度の取り組みの評価として、感染率・手指消毒剤使用量の推移、創部包交時の感染管理ベストプラクティス自己評価結果などを一緒に振り返ることで、手指衛生の習慣化やスタッフの行動変容にはデモンストレーションを用いた動機づけが効果的ではないか、と今後の取り組みのヒントを得ることができ、私自身もとてもよい経験となりました。

今後も、ICTリンクナースと協働しながら、感染対策の改善についての検討、実践などに取り組んでいきたいと思っています。



## 医療安全管理室だより

## ヒューマンエラーについて

医療安全管理係長  
山本 三恵

医療安全の目指すところは、「医療現場におけるエラーを防ぎ事故を防止すること」です。人間は誰でも間違えるという特性を持っています。しかし間違いは防ぐことができます。そのために、間違いにくいシステムを構築することが重要とされています。

医療安全の古典的な考え方は、「一人前のプロはエラーをしない」「初歩的なミスだ」「精神がたるんでいる」「注意力が足りない」等とインシデントの原因が人の質に焦点を当てた考え方でした。これらの解決策といえば、人間の力に頼るだけの「注意します」「ダブルチェックします」「確認回数を増やします」「スタッフに周知します」が立案され、結果的には同じインシデントが繰り返されていました。しかし、現代の考え方は、「エラーを科学的に理解する」です。

ヒューマンエラーとは人間側の要因と環境の要因から引き起こされた人間の行動でありその行動がある許容範囲から外れたものと言われています。この人間の行動とはどうやって起こされるのかというと、心理学者コフカによると「人は自分の理解した世界（心理的

間）に基づいて行動を決定している」と言われています。この考え方では、エラーを起こした本人は正しいと思って行動しているということです。

たとえば、道に落とし穴を掘っていたとします。普通はみんな引っかかりますよね。ではなぜ引っかかるのでしょうか。それはほとんどの人が日常的には落とし穴があるはずがない、危険はないと判断して行動しているからです。

医療の現場でも同じです。インシデントが発生した際に聞き取りをすると、自分や誰かが確認していると思いき、大丈夫だと判断して行動しています。インシデントを予防するためには、この「大丈夫だと判断」させてしまった理由を知り、誤った判断をさせないための方策が重要です。

医療安全ではこのように、インシデントの原因を分析しエラーを科学的に理解することに力を注いでいます。みなさんも「間違えたのはあの人だから」ではなく、「何が人を大丈夫と判断させたのか」に焦点を当てて物事を捉えていただきたいと切に願っています。



おいおい  
似たボタンが多いと  
絶対 押し間違えるよな  
これは環境が問題だな!

看護学校だより

基礎看護学実習Iを終えて



看護学校 谷内 典子

第56期生39名は、平成30年11月26日～12月6日に基礎看護学実習Iを行いました。7日間という短い期間の中で対象者と対象者を取り巻く環境の理解を深めること、またコミュニケーションを基盤として基本技術や日常生活援助技術を対象者に実施し、看護の目的・方法を学ぶことを目的としています。初めての臨地実習ということで、期待と不安を胸に緊張の面持ちで初日を迎えました。学内で基本技術や日常生活援助を練習してきましたが、初めて患者さんに実践する際には手が震え、練習通りに行くことで精一杯でした。戸惑い悩みながらの実習でしたが、患者さんや指導者の方々に支えられ、充実した実習となりました。実習後の12月13日に振り返りの会を行い、実習での学びのまとめを発表しました。グループの学びをA3用紙にまとめることの難しさを痛感したようです。各グループが伝えたいことを精選しながら、相手に伝わるように表現することについてはまだまだ不十分な部分も多く課題が残りますが、発表後には活発な質疑応答を行いました。他者に自分の看護を問われることで、自分の実践の意味を改めて深く考えることができ、新たな問いが生まれ、看護の奥深さを実感したようでした。また、臨床の方々より、あたたかいメッセージカードをいただき、感動していました。本当にありがとうございました。学生は臨床で出会う看護師さんや患者さんに育ててもらって成長していくということを実感しました。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。



学生の感想

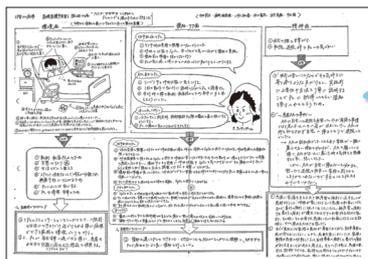
実習で私ができることは限られていましたが、その限られた中で何ができるのか沢山考えました。「患者さんと話す」それにはどんな意味があるのか、ただ話をするだけでなく看護をするという視点を持ちながらコミュニケーションをとるということを学びました。実習最終日、患者さんから「本当にありがとう。えい看護師さんになれるね、頑張りよ。」という言葉をいただきました。この言葉を聞いて、少しでも患者さんの退院に向けての力になれたことを嬉しく思いました。また、看護師さんの看護を間近で見させていただき、看護って素晴らしいなと思いました。また、振り返りの会に向けてまとめる時、実習を通して自分が学んだこと、グループとして話し合ったことはたくさんあったのに、それを他者に伝わるように言葉にすることが難しかったです。しかし、「振り返りの会までが実習！」ということを意識して最後まで協力して取り組みました。今回の実習で感じた気持ちを大切に次の実習につなげていきたいです。

窪田 望恵

学生の感想

私はこの実習を通して、患者さんとのコミュニケーションを通して必要な情報を収集し、それらを活かした看護をする大切さを学びました。病棟の看護師さんは、ケアを行う時、患者さんに言葉をかけたり表情や視線等を見て、臨機応変にケアの方法を変えていました。患者さん一人ひとりに合った看護をするために、まずは看護師が患者さんの状態を見極めて、それに応じた対応が出来なければいけないと思いました。

福岡 絵美理



振り返りの会の資料です。それぞれグループがA3用紙に伝えたいことを工夫しながらまとめました。

臨床の方々のメッセージカードに大感激!!



## 地域医療連携室だより



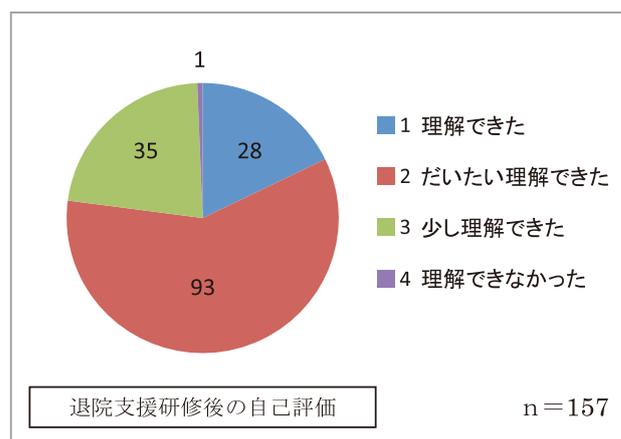
看護師長  
西本 美香

# 地域包括支援システムの構築をめざして 退院支援研修を実施しました

これまで、退院調整リンクナース会（一般病棟から選出された委員と退院調整看護師で構成）において、診療報酬改定時や院外研修受講後の伝達講習等は行っていましたが、全体の知識を高めるには限界を感じていました。そこで、今回の研修の企画に当たって、退院支援の知識を学び、退院支援ができるようになるため、研修方法について試行錯誤し、院内教育プログラム退院支援研修として10月から11月にかけて実施しました。目的は、地域において自施設の果たす役割と位置づけについて理解し説明できると共に、退院支援ができる。具体的には、1. 退院支援システムのプロセスについて説明できる。2. 地域との支援ネットワークを活用した継続看護について説明できる。3. 退院前カンファレンスにおいて継続する問題の情報共有ができることをあげ取り組みました。研修方法として、講義を受講後、退院前カンファレンスに参加して自分の支援を振り返るためのOJTとしました。講義では、退院支援システムの必要性、病棟スタッフの役割、退院支援看護師・MSWの役割、連携の取り方、退院前のカンファレンスの目的と方法について知識の習得ができるようにしました。参加者の退院支援について、理解できた・ほぼ理解できたが77%でした。振り返りの意見として地域の病院で継続した治療が受けられるよう、調整していくこと。在宅に不安なく帰れるよう、

在宅部門と調整していくことを再認識した等、自施設の役割を学ぶことができたとの意見が得られた。また、退院前カンファレンスに参加するまでの取り組みとして、患者・家族の思いや自宅等の情報収集やリハビリの内容の確認が必要であること。看護サマリーの充実があると意見がありました。このように、参加者からは、今回研修実施についてプラスの意見が多く得られた。

住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括支援システムの構築が示されています。患者さんへの継続した支援が提供できるように、看護全体で、個別性に対応できる実践力をつけれるように取り組んで行きたいと思いません。



# 第155回 高知病診連携フォーラムのご案内

【日時：平成31年2月28日（木）18:30～20:00】

特別講演

## 「地域・院内の急変例の救命率をあげる方策 ：日本蘇生協議会（JRC）蘇生ガイドラインから」

自由参加  
です

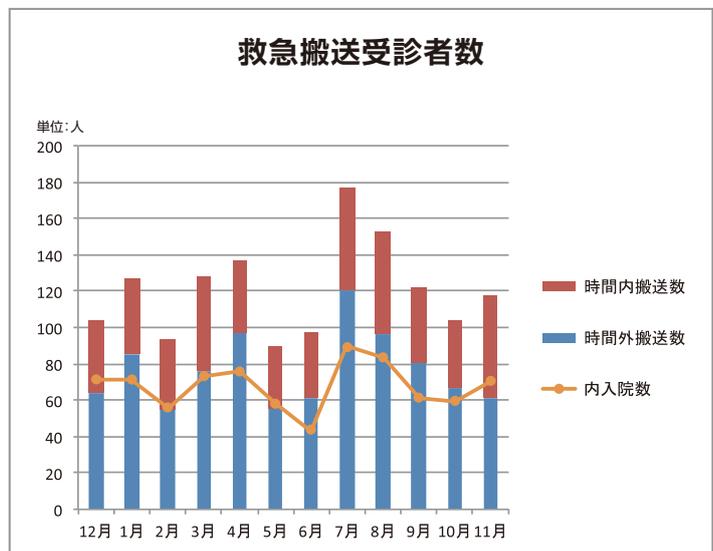
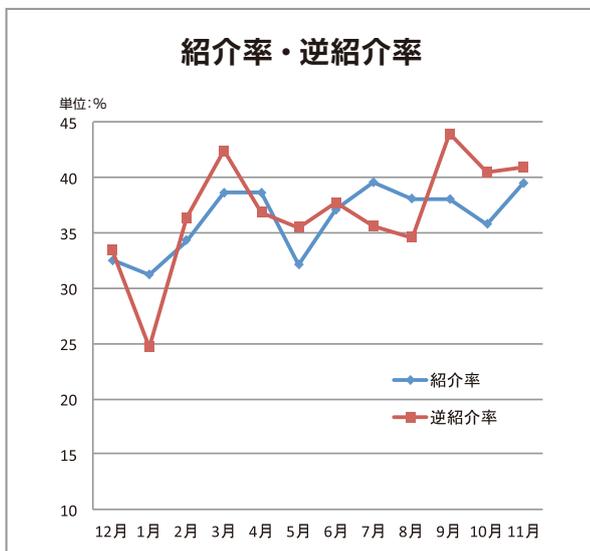
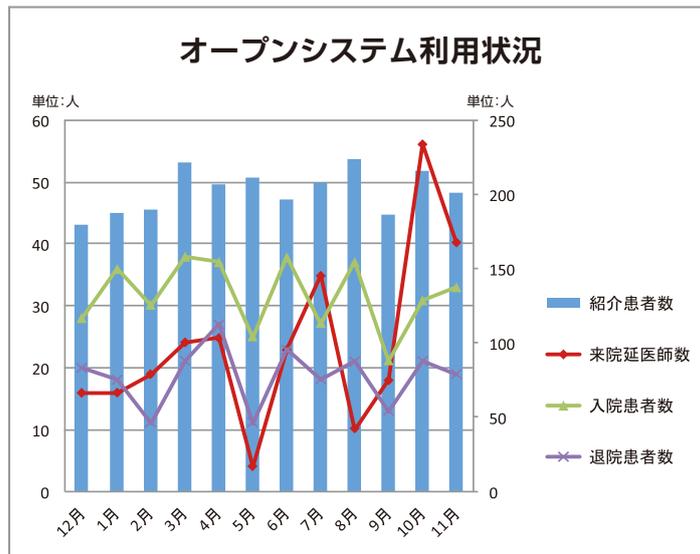
● 静岡県立総合病院 安全衛生監・集中治療センター長／野々木 宏先生

場所：国立病院機構高知病院 2階地域医療研修センター

問い合わせ先：地域医療連携室 088-828-4465

ご参加お待ちしております。

### 高知病院地域連携等概況



# 外来診療担当医表

(平成31年1月1日現在)

■受付時間 8:00~11:00

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日



独立行政法人  
国立病院機構 **高知病院**

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号  
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385  
<http://www.kochihp.com>



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金	
内科	午前	1診 ⑫	門田・町田(隔週)	森田・木村(隔週)	岡野・井上(隔週)	岡崎・篠原(隔週)	皇山・矢葺(隔週)
		特別外来 ⑪	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後	専門外来			化学物質過敏症(予約制)		
神経内科		⑰	不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	午前	1診 ⑧	篠原 勉	大串 文隆(予約制)	皇山 暢生	大串 文隆(紹介のみ)	岡野 義夫
		2診 ⑥			森田 優	町田 久典	篠原 勉
		3診 ⑫			大串 文隆		門田 直樹
	午後	専門外来				禁煙外来 14:00~15:30(予約制)	
消化器内科	午前	⑨	井上・笠井	池田 敬洋	岡崎 潤	井上 修志	池田 敬洋
循環器内科	午前	⑦	山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後	⑦			伊藤 いづみ 受付13:30~16:00	ペースメーカー (第2木曜)	
リウマチ科		⑩	松森 昭憲 (糖尿病も診察)		大串 文隆 (予約のみ)		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1診 ①	武市 知己	大石 尚文	武市 知己	小倉 英郎	大石 尚文
		2診 ②	大石 尚文		佐藤 哲也	武市 知己	高橋 芳夫
		3診 ③	佐藤 哲也	井上 和男	小倉由紀子	井上 和男	
	午後	専門外来	神経・アレルギー (第2月曜 医大循環器)	アレルギー 循環器	乳児健診	アレルギー NICU フォローアップ	神経・内分泌・腎臓 乳児健診
		予防接種	14:00~16:00(予約制)	14:00~16:00(予約制)	14:00~16:00(予約制)	14:00~16:00(予約制)	14:00~16:00(予約制)
外科 消化器外科 小児外科	午前	⑤	吉川 雅登	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	花岡 潤
	午後	専門外来	吉川 雅登 (ヘルニア外来)	福山 充俊 (乳腺外来)		福山 充俊 (乳腺外来)	花岡 潤 (肝臓・胆道・膵臓外来)
呼吸器外科	午前	⑧		先山 正二		先山 正二	
		⑦		日野 弘之		日野 弘之	
乳腺科	午前	⑦			本田 純子		
	午後	⑧			本田 純子 受付15:30まで		本田 純子 受付15:30まで
整形外科	午前	①	福田 昇司(予約制)		西殿 圭祐	福田 昇司	合田有一郎
		②	西殿 圭祐				
	午後	②	骨粗鬆症 13:00~15:00(予約制)			田村 竜也(予約制)	
脳神経外科	午前	1診 ⑧	非常勤 10:00~12:00		非常勤 9:00~11:00(予約制) 予約外の方はお問い合わせ下さい		
皮膚科	午前	⑬	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌尿器科	午前	⑨	渡邊 裕修	島本 力	佐竹 宏文	渡邊 裕修	佐竹 宏文
		⑦	佐竹 宏文 診察開始 10:00~				島本 力 診察開始 10:00~
産科	午前	⑳	滝川 稚也	福家 義雄	福家 義雄	今泉 絢貴	滝川 稚也
	午後		超音波外来(予約制)		1ヶ月検診		
婦人科	午前	⑳	木下 宏実	今泉 絢貴	木下 宏実	滝川 稚也	木下 宏実
	午後			クーポンがん検診 (予約制) 10:30~11:30		クーポンがん検診 (予約制) 10:30~11:30	思春期外来(予約制)
眼科	午前	㉓	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前	⑯	岩崎・内藤	岩崎・内藤	岩崎・内藤	岩崎・内藤	岩崎・内藤
	午後						
放射線科			小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。  
 ※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。診察も希望される場合は事前に外科までお問い合わせください。  
 ※当日の受付は午前11:00までとなっております。